

平成 28 年 司法試験合格体験報告会



日時：平成 28 年 9 月 16 日（金）14:00～17:00

場所：豊中総合学館 4 階 401 講義室

大阪大学大学院高等司法研究科

合格体験報告会

平成 27 年度修了 既修
佐々木 良太

- 1 経歴
2014 年3 月 京都大学法学部 卒業
2014 年4 月 大阪大学法科大学院（既修） 入学
2016 年3 月 大阪大学法科大学院 卒業
2016 年9 月 司法試験合格（選択：倒産法）
- 2 短答の勉強
 - （1）2 年次：1 年目
 - ・授業への対応に手一杯だったため、授業期間は本格的な択一对策ができなかった
 - ・授業の小テストを利用し過去問を徹底的に解いた（民法・刑法）
 - ・2 年次を終え休み期間に入ると、予備試験に向けて択一对策を本格的に開始
 - ・憲法は問題集を購入し全ての選択肢を理解するよう心がけた
 - ・民法、刑法については過去問を解き直し、条文素読を行う
 - ・TKC の模試を受け、自分の実力を図る
 - ・判例六法に一元化
 - （2）3 年次：2 年目
 - ・前期は予備試験に向けて択一の勉強を行った
 - ・夏休みから択一对策を本格化させる
 - ・憲法は肢別本、民法・刑法は問題集を購入し、やり込む
 - ・後期が始まっても択一对策を続けた
 - ・民法や刑法の得点と伸ばすため、2 科目に重点を置く
 - ・憲法は百選や基本書（統治を中心に）を読み込むことで論文対策を兼ねた
 - ・後期終了後は3 法それぞれについて条文素読、百選・基本書の読み込み
- 3 論文の勉強
 - （1）2 年次：1 年目
 - ア 前期
 - ・前期は授業への対応に追われる
 - ・再チャレ開始
 - ・夏休みから新司法試験を解く自主ゼミを組む。週1 程度。
 - ・答案の書き方を理解していないと感じていたので、答案の型を意識するようにした
 - イ 後期
 - ・授業に慣れてきたので、予習復習＋ α の勉強を開始
 - ・演習書を解き始める
 - ・答案の型を意識する
 - （2）3 年次：2 年目
 - ア 前期
 - ・予備試験の択一が終わってから論文の勉強を再開
 - ・2 年次の授業の復習にも重点を置いた
 - ・三段論法を意識する
 - ・答案構成の内容にこだわるようになった
 - ・論文用の知識を一元化し始める
 - ・夏休みには旧司法試験（民法・民訴）にも取り組んだ
 - イ 後期
 - ・自主ゼミの頻度を増やす

- ・年明けから答練の問題を解き始める
 - ・答案を書く回数を増やし、書く量を増やす
- (3) その他
- ・各科目、演習書を何周も解き直した
 - ・新司法試験の過去問は自主ゼミ、再チャレを利用して解いていた
 - ・自主ゼミは卒業まで、再チャレは3年前期まで継続
 - ・過去問は何度も解き直し、自分なりの正解筋を作りあげた
 - ・論文に関する知識は予備校本や自作のまとめノートに一元化していた
 - ・答案の読みやすさ（ナンバリング、日本語としての自然さ等）は常に意識していた
- 4 定期試験
- ・予習と復習が基本
 - ・時間が足りないと感じるが多かったので、時間を節約することを心がけた
- 5 使用教材（一部のみ）
- (1) 公法系
- ア 憲法
- 小山剛 他「判例から考える憲法」(2014 年 法学書院)
- 戸松秀典 他「憲法判例 第7版」(2014 年 有斐閣)
- イ 行政法
- 大橋洋一「行政法Ⅰ 現代行政過程論 第2版」(2013 年 有斐閣)
- 大橋洋一「行政法Ⅱ 現代行政救済論」(2012 年 有斐閣)
- 曾和俊文他「事例研究行政法 第2版」(2011 年 日本評論社)
- (2) 民事系
- ア 民法
- 松岡久和他「民法総合・事例演習 第2版」(2009 年有斐閣)
- イ 商法
- 前田雅弘 他「会社法事例演習教材 第2版」(2012 年 有斐閣)
- 早川徹「基本講義 手形・小切手法」(2007 年 新世社)
- 森本滋「商法総則講義 第3版」(2007 年 成文堂)
- ウ 民事訴訟法
- 藤田広美「講義 民事訴訟 第3版」(2013 年 東京大学出版会)
- 藤田広美「解析 民事訴訟 第2版」(2013 年 東京大学出版会)
- (3) 刑事系
- ア 刑法
- 高橋則夫「刑法総論 第2版」(2013 年 成文堂)
- 高橋則夫「刑法各論」(2011 年 成文堂)
- 井田良他「刑法事例演習教材 第2版」(2014 年 有斐閣)
- イ 刑事訴訟法
- 宇藤崇 他「刑事訴訟法 (LEGAL QUEST)」(2012 年 有斐閣)
- 古江頼隆「事例演習刑事訴訟法」(2011 年 有斐閣)
- 酒巻匡「論点講座・刑事手続法の諸問題(1)～(19)」(法学教室連載 283 号～306 号)
- (4) その他
- 伊藤真「破産法・民事再生法 第3版」(2014 年 有斐閣)
- 山本和彦「倒産法演習ノート 第2版 倒産法を楽しむ22問」(2012 年 弘文堂)
- 判例百選（各科目）その他基本書、演習書等（各科目）

合格体験報告会レジュメ

平成 27 年度修了 既修
池田 佳菜子

第 1 自己紹介

2014 年 3 月 名古屋大学法学部 卒業
2014 年 4 月 大阪大学大学院高等司法研究科（既修） 入学
2016 年 3 月 大阪大学大学院高等司法研究科 修了（最終順位 6 位）

短答式 140 点（憲法 40 点、民法 52 点、刑法 48 点、順位 1254 位）
論文式と総合結果は待っているところ…
選択科目は労働法

第 2 勉強のスタンス

1 授業が第一

基本書を読むのはもちろんだが、授業が自分の力を効率的にアップさせるための最良の手段だと感じていた。授業を司法試験に直結させよう。

2 自分の得手不得手をきちんと理解する

自分の特性等を分析し、合格のために今の自分に必要なことは何かを常に考え、取り組むことを決めていた。

例）文章を書くことに不安なし。きちんと理解して keyword を押さえていれば、論証パターンという形で覚えなくともその場で論述できる。

→正確な知識を身に付けることが合格へ必要なことだ！

3 自分と自分の勉強方法に自信をもって突き進む

勉強方法は人それぞれ。記憶力、処理能力、思考力…すべて人それぞれなのだから当然。自分を理解して、考えて決めた勉強方法ならば、人から何を言われても気にすることはない。（ただし、間違った方向を正してくれるアドバイスももちろんある。）

例えば私の場合、ベストパフォーマンスをするために必要な睡眠時間が人よりも長め。人からいろいろ言われることもあったが、長時間勉強するよりもよく寝て集中してやる方が自分に合っていたので、気にしなかった。

答練の開始時期。

ON, OFF も大切。ヒトカラ、帰省、旅行もたくさんした。

第 3 勉強方法

1 論文について

3 年後期の期末試験終了までは、授業第一のスタンスを貫いた。授業だけでも精一杯だったため、他に問題集を解くということはあまりしなかった。ゼミも本格的に組んだのは 3 年 7 月から。

（1）授業後のまとめノートの作成

授業後に復習しながらまとめノートを作成。司法試験にそのまま使えるよう、自分なり構成しなおす。授業で扱わなかったところも補充。ゼミや問題集を通して得た知識もここへ補充していった。司法試験直前期はこれを見直した。試験会場にもまとめノートを持参。

※声に出す勉強方法

私は声に出す方が頭の中に入りやすく、理解しやすいと感じていた。まとめノートを読む際に声に出してみたり、keyword だけ声に出してみたり、ノートを見ないで自分に対して声に出して説明してみたりした。

（２）司法試験過去問

- ・２年前期の期末試験前、授業があった刑訴、行政法のみ数年分司法試験過去問を解く。
- ・２年の１年間は再チャレをやっていた。司法試験過去問も数回扱った。
- ・本格的に司法試験過去問に取り組みだしたのは３年７月からのゼミ。週２ペースで取り組んだ。各々時間を計って解いた後ネット上にアップ。ゼミ前にそれぞれの答案に目を通し簡単にコメントしたうえで、ゼミで検討を行うという形をとった。

司法試験の過去問は結果的にはほぼ１周しかできず、合格答案の分析も不十分だったと感じているので、もう少し早くから取り組みればよかったと反省している。

- ・労働法の過去問は別のゼミで扱った。これも３年後期からと遅い時期からの取り組みだったが、個人的にはそれでも遅くはなかったかと感じている。

※ゼミの組み方

既修未修、性格、得意分野等様々な点でバランスの良いゼミが組めるとよいと思う。

特に女性同士だと言いたいことが言えないことが多々あると聞く…。男性はわからないが、女性の場合は男女混ざったゼミの方が個人的にはおすすめ。

（３）予備校の答練

伊藤塾のペースメーカー答練を３年の１月から利用した。多くの人が、予備校は様々だが９月から答練を利用していたため、比較的遅くからの利用だったと思う。授業＋司法試験過去問ゼミに優先順位を高く設定していたため、授業が終わりに近い１月からの利用となった。

２時間で初見の問題を解き切る練習ができ、非常によかった。

（４）１００選の読み込み

授業が終わる時期になってからやっと取り組んだ。１００選レベルの知識は合格の大前提なので、もっと早くからやるべきだった。

（５）問題集

事例で考える会社法と、刑法の事例演習教材のみ取り組んだ。刑法事例演習教材は授業で多くを扱い、残りを一人で取り組んだ。会社法も一人で取り組んだ。どちらも解説が充実しているため、一人でも問題ないと感じる。

（６）予備校模試

伊藤塾の答練にセットになっていたため、TKC模試を受験した。本番と同じ時間、会場で受験でき、司法試験はこんな感じなのかとイメージを持つことができ、本番の過ごし方も考えられたため、これもおすすめ。

２ 短答について

肢別ではなく、過去問の問題集を利用した。知識を比較して覚えられる点が利点。

授業の中間試験、予備試験、TKC短答模試と、短答式に取り組む機会はたくさんあった。直前期までに、どの科目も５週くらいは取り組んでいたと思う。私は長期記憶が苦手な直前期にやり直さないと得点が得られないので、直前期に１周はしようと考えていた。しかし、他に優先したいことがあったため、直前期は１周するかしないかくらいになってしまった。刑法のみ司法試験４日目に急いで１周し、本番は得点源になった。短答式と論文対策をどのようにバランスをとるのが正解だったのかはいまだにわからない。そのような状態で受験してしまったため、短答落ちしないか非常に不安だった。

第４ 最後に

- ・自分を分析して、自分なりの勉強方法を確立してみてください。
- ・特に、３年７月からのゼミメンバーのおかげで合格できたと感じています。素敵なゼミメンバーと巡り合うことも合格への近道かもしれません。

- ・授業の取り方に関して、成績も気になるかもしれませんが、司法試験合格のために自分に必要な授業を選択してみてください。阪大ローの先生方の授業は、それだけで合格に近づける素晴らしいものばかりです。
- ・司法試験は精神力と体力が不可欠な試験だと感じました。試験期間で恐ろしいほど体力、精神力が削られるので、前日までは好調な状態にしておくと思います。模試とは比較にならないほどです。厳しい試験ですが、くじけないでください！
- ・私であれば相談に乗るくらいはできるので、よかったら気軽に声をかけてください。

以上

合格体験報告会レジメ

平成 26 年度修了 未修
小西 総一郎

1. はじめに

- ・ 自己紹介
- ・ 司法試験の成績について

2. 未修 1 年目の学習

- ・ 1 学期の失敗
- ・ 2 学期の成功

3. 2 年・3 年の勉強

- ・ 学校の勉強（復習中心／まとめノートづくり）
- ・ 自分の勉強（勉強会中心）

4. 司法試験 1 年目の失敗

- ・ 演習量の不足と基本書の愛好

5. 司法試験リベンジ

- ・ 合格者からもらうアドバイス
- ・ 問題集をこなす日々
- ・ 予備校（講座／模試）

6. まとめ

- ・ 勉強の仕方（合格のために必要だったと思うこと）
- ・ モチベーションの維持

7. 付録（使ったテキスト一覧）

科目	基本書	演習書	判例集	その他
憲法	芦部	判例から考える憲法	百選	小山・作法
民法	佐久間 1・2	ロープラ	百選	
	中田債権総論	事例で学ぶ民法演習		
	潮見 1・2			
	家族法アルマ			
刑法	基本刑法 1	刑法事例演習教材	山口・西田	新実例刑法
	基本刑法 2			
行政法	基本行政法	事例研究行政法	判例ノート	
	大橋・救済法	事案解析の作法		
民訴法	長谷部	藪口・ロースクール演習	百選	
	アルマ			
会社法	リークエ	事例で考える会社法	商法判例集	
		会社法事例演習教材		
刑訴法	リークエ	エクササイズ 刑事訴訟法	判例ノート	
経済法	条文から学ぶ	論点解析	ケースブック (弘)	

※話したとおり、法律の本を読むのが大好きで、ここに書かれている 4 倍くらいは読んだと思います。

これ以外にも読んでよかったと思った本はたくさんありましたが、受験生のみなさまの混乱を避けるべく、「次の 5 月に受験しなければいけないとすれば自分が使うであろうテキスト」という基準で選んだものだけを掲載しました（中田債権総論は除く）。

※これ以外の本の感想を聞きたい方がいれば直接聞いてください。

合格体験報告会レジュメ

平成 26 年度修了 未修
堀本 圭祐

1. 略歴

2008 年 3 月 近畿大学法学部政策法学科 入学
2012 年 3 月 近畿大学法学部政策法学科 卒業
2012 年 4 月 大阪大学高等司法研究科 未修者コース 入学
2015 年 3 月 大阪大学高等司法研究科 卒業 (特待修了)
2015 年 司法試験 1 回目受験 不合格
(短答: 125 点, 3784 位 論文総合: 819 点, 2090 位 [合格者 1850 人])
2016 年 司法試験 2 回目受験 合格
(短答: 143 点, 910 位 論文総合:)

2. 1 回目 (ロー在学～1 回目受験) を振り返って

- ・授業を中心とした (授業だけ) 勉強
- ・1 週間に 6～7 回くらいのゼミ
- ・短答の勉強を後回し

3. 2 回目受験期

- ・敗因分析
 - (1) 司法試験の結果と自分の手応えとのギャップを知る
 - (2) 再現答案を作り、合格者に答案をみてもらう
 - (3) 2 回目受験の人に勉強の仕方を聞く



- ・ゼミは 2 つで週 3～4 回 (時間を計って答案を作る)
- ・予備校の答練を受講
→ 阪大ロースクール以外の合格者に自分の答案をみてもらう
- ・短答を徹底的に勉強
 - (1) 司法試験の過去問を 2～3 週
 - (2) TKC の模擬問題芦別本 (旧試の問題もある) を 1 週する。
 - (3) 判例六法で、民法と刑法は判例を含めて素読 (1 週)

- ・情報の一元化

- ・ノート作り

(基本書・判例集や授業のレジュメなどを基本に)

4. 最後に

- ・阪大ロースクール生なら、受かる素質は必ずある

- ・先生に積極的に質問に行く

- ・実務家の先生との懇親会等の参加

(★モチベーションが高まる。もっとも注意も必要)

- ・ゼミをどのように使うかは考える

(考えて勉強をする)

- ・マグレで受かることはあるが、マグレで落ちることはない

- ・周囲に感謝をする

合格体験報告会

平成 25 年度修了 未修
米澤 弘朗

はじめに

合格のために重要と考えるものは人それぞれ。自分の特性・性格に合う勉強方法を見つけることが肝心。

勉強方法の失敗と克服

→インプット方法の失敗と克服

1 年目の私に足りなかったのは、論文試験でどのように表現するか、という意識
これを意識するために、問題集や論証集を参照

→アウトプット方法の失敗と克服

何を獲得するために行うか、目標が不明確なまま行う問題演習の効果は薄い
答案構成の能力や表現能力の向上、時間配分など、何らかの目標を持つ

オススメの過去問演習法

過去問を解く→出題の趣旨・採点実感を見る→ヒント部分にマーカーを引く→採点表を作る→もう一度構成をする

私が行っていた特殊な勉強法

- ・スピードラーニング会社法
- ・勉強場所を転々とする（家、大学の図書館、予備校、カフェ、お風呂）

☆なんとなく勉強するのではなく、考えながら勉強する

ある 2 回目合格の人の勉強方法

平成 26 年度修了 既修
石黒 大地

I. 論文対策

①過去問の検討

はじめに、解く年度を厳選しました。難易度や最近の問題傾向との合致度を考慮して、行政法と刑事系は全年度、他の科目は直近 3～4 年分解きました。次に、当たり前のことですが、時間を計って手で書きました。そして、ゼミ仲間だけでなく、弁護士・検察官の先生方にも答案を見てもらいました。

②「〇〇法の掟」の作成

出題趣旨・採点実感において指摘されている注意点をまとめました。答練や本番の直前に必ず参照して解きました。

③「キーワードまとめノート」の作成

私は、論証の「キーワード」だけをまとめました。その結果、作成時間・復習時間の短縮を実現しました。

④予備校の活用

私は、知識の穴を埋めるため、ある予備校の答練を解き、ゼミ仲間と検討しました。また、ヤマを張るため、模試を 2 つ受けて実戦感覚も養いつつ本番に備えました。

II. 短答対策 ※ちなみに私は 141/175 点 (1125 位) というまずまずの成績でした。

①過去問集か、肢別本か？～永遠のテーマ～

どちらも使った私の結論としては、過去問集です。過去問集は本試験で繰り返し問われている肢・ポイントが分かりやすく、肢別本ほど手を広げなくても正解にたどり着くことができる問題がほとんどだからです。

②CD の活用

条文やポイントを読み上げてくれる CD を憲民刑いずれも使用していました。スキマ時間でも使えますし、気分転換にもなるのでオススメです。

III. おわりに

これから受験される皆さんに少しでも参考になれば幸甚です。合格の喜びの破壊力は言葉にできないほどです！是非体感してください！！

以上

司法試験合格体験談

平成 27 年度修了 未修
木村 洋介

平成 28 年司法試験に合格しましたので、受験勉強について自分なりに考えていたことを、この場を借りてご紹介します。

司法試験に合格するためには、何が必要でしょうか。疑いのない必要条件は、努力です。「努力すれば成功するとは限らないが、成功した人で努力していない人はいない。」は、はじめの一步などでも紹介されたベートーベンの名言です。

努力したうえで合格するにはどうすればよいでしょうか。これについては、努力の量と内容を誤らないことが重要だと思います。合格には何が必要かを分析したうえ、各人の能力に応じて必要な努力をすること、いわば合格までの距離と方向を見極めることが肝要だと思います。もし努力の量が割に合わないと感じたら、すぐに他の道に進むのが賢明だと思いますし、それこそが尊敬に値する生き方だと思います。

必要な努力を見極めるにはどうすればよいでしょうか。これについては千差万別かと思いますが、自分にとっては予備校の講座と友人との勉強会が有益でした。予備校の講座は伊藤塾のペースメーカー論文答練やアガルトアカデミーの司法試験論文過去問解析講座などを受講し、勉強会は優秀な友人と 3 人で平成 23 年から平成 27 年の過去問検討を各科目 1 時間 30 分かけてしました。勉強会について付言すれば、効率化のためにも、少人数かつ多様なメンバーで、できる限り短時間で行うことが重要だと考えていました。

以上をふまえ、どのように努力すべきでしょうか。これについても千差万別かと思いますが、自分について述べれば、未修の授業に併せて基本書を読み込み、その知識を自作のまとめノートへと昇華し、日々の問題演習等を通じて適宜修正してゆきました。皆さんのなかには、大学院と予備校のどちらを重視すべきか迷われる方も多いかと思います。個人の見解を申し上げれば、大学院の優秀な成績は非常に重要ですが（就職にあたり重視されると最大手弁護士事務所の採用担当の方が明言されていました。）、これは必ずしも授業に傾倒せずとも、予備校の有効活用等でも獲得可能だと思います。大局的な視点に立って、自分にとって効率的な学習を心がけることが重要だと考えていました。

以上、長くなってしまいましたが、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

以上

在学中に意識したこと

平成 27 年度修了 既修
藏野 時光

私は、1 回目の受験で合格することができました。既修として入学しましたが、入学時は法的知識、法的思考が未熟でした。高等司法研究科に在籍した 2 年間、教員の方々をはじめ、様々な方のお世話になりました。様々な方の支えがあつてこそ、法的知識、法的思考を身につけ、合格することができたと考えています。

私は、この 2 年間、①授業から学ぶ、②自分で考えるという 2 つの方針を意識して勉強しました。①については、授業で問われた知識、論すべき点に関する基本書の項目や判例等を調べるのみならず、それらと同じ条文で問題となりうる論点や判例等の整理まで行うことを意識していました。科目ごとにまとめノートを作成し、「これを論すべきときはこの評価軸を意識する」などという思考の型を記載していました。②については、問題演習での思考過程を他人に説明できるようにすることを意識していました。

司法試験では、考えたこともない法的問題点を論述することになるのですから、常に使える知識を蓄え、自らの言葉で説明できるように整理しておく必要があると考えています。

司法試験受験生の皆さまは何らかの形で自主ゼミをしたいと思います。私は、自主ゼミにおいて、「自分は～と考えるけれども、どうだろう」と発言するようにしていました。自主ゼミの活用法は様々だと思いますが、自らの主張を交えて議論をすることが重要であると考えています。

司法試験に合格するためには、日々の努力が必要となります。司法試験受験生の皆さまは、日々自分で思考することを忘れず、勉強をしてくださればと思います。

司法試験合格体験記

平成 27 年度修了 既修
佐々木 良太

司法試験の合格のためには、ロースクールでの勉強に一生懸命取り組むことが大切だと思います。その中で、司法試験を見据えて自分の弱点を分析し、自分なりの対策を立て、勉強計画を練ることが重要だと思います。

私個人としては、司法試験の合格のためには自主ゼミが重要だと考えています。自分に足りないものをゼミ仲間に指摘してもらい、ゼミ仲間から必要なノウハウを吸収する、といった利点がありますし、それ以外にも情報を共有できたり、苦楽をともに出来る仲間を作ることができるといったメリットもあると思います。

また、大阪大学ロースクールでは質の高い勉強環境が整っていると思います。わからないことは先生に質問する、図書室、資料室で徹底的に調べる、このように充実している勉強環境を徹底的に利用することも重要です。

勉強以外の面では、メンタルや健康面が重要です。司法試験はとにかく過酷です。これらが崩れてしまえば司法試験に向けての生活を乗り切ることはできません。勉強を早く切り上げて遊ぶ等して息抜きをすることも重要です。

ロースクールでの生活はあっという間に終わってしまいます。司法試験は漫然と勉強して簡単に合格できるような試験ではありません。なので、日々行っている勉強を司法試験に合格するためにやっているものと考え、目的意識を持って必死にがんばって欲しいと思います。